

## 通信規格分科会\_活動計画 (v03r02)

## 1. 目的

中小企業 EDI と既存の EDI の融合を実現する。そのため、「次世代企業間データ連携調査事業」の通信に係る部分を通信規格としてとりまとめ、すでに EDI を実施している企業や業界と容易に接続できる「データ連携プラットフォーム（後述）」を提示する。

## 2. 検討体制

- 通信規格分科会は、技術部会の下部組織とする。
- 通信やサービスに強いベンダーおよび業界関係者を中心に組織し、既存 EDI と融合可能な次世代企業間データ連携機能について検討する。

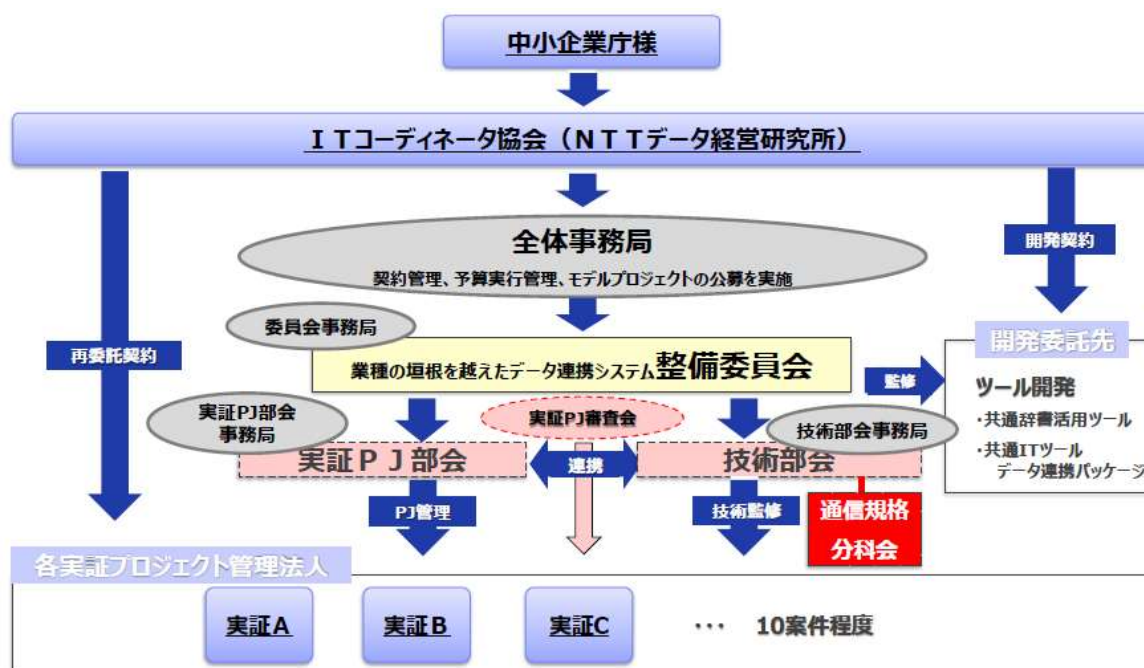


図1 通信規格分科会の位置づけ

## 3. 検討内容

- (1) 実証プロジェクト推進のためのサポート
- (2) 既存 EDI との融合と普及・展開

## 4. 目標

今年度は、実証プロジェクトを成功裏に収めることを最優先とし、それらのプロジェクトが、今後既存の EDI と融合するための通信規格を取りまとめ「データ連携プラットフォーム」として

提示する。

来年度以降、引き継ぐことができる組織があれば、今年度の結果を検証し、データ連携プラットフォームの活用により、ビジネスデータ連携基盤（後述）の普及と自走化を目指す。

## 5. 活動範囲

「ビジネスデータ連携基盤」とは、業界に特定されない国際標準（国連 CEFACCT 標準）のもと、業務領域で柔軟に企業間データ変換を行う業務要件を中心にとらえた基盤。中小企業共通 EDI、金融連携、IoT 連携など、業務面から企業間データ連携を実現する。

「データ連携プラットフォーム」とは、ビジネスデータ連携基盤を構成する通信やデータ変換、データ管理、運用、セキュリティをつかさどる機能群をいう。

また、将来グローバル連携を可能とする認識のもとで活動が続ける。

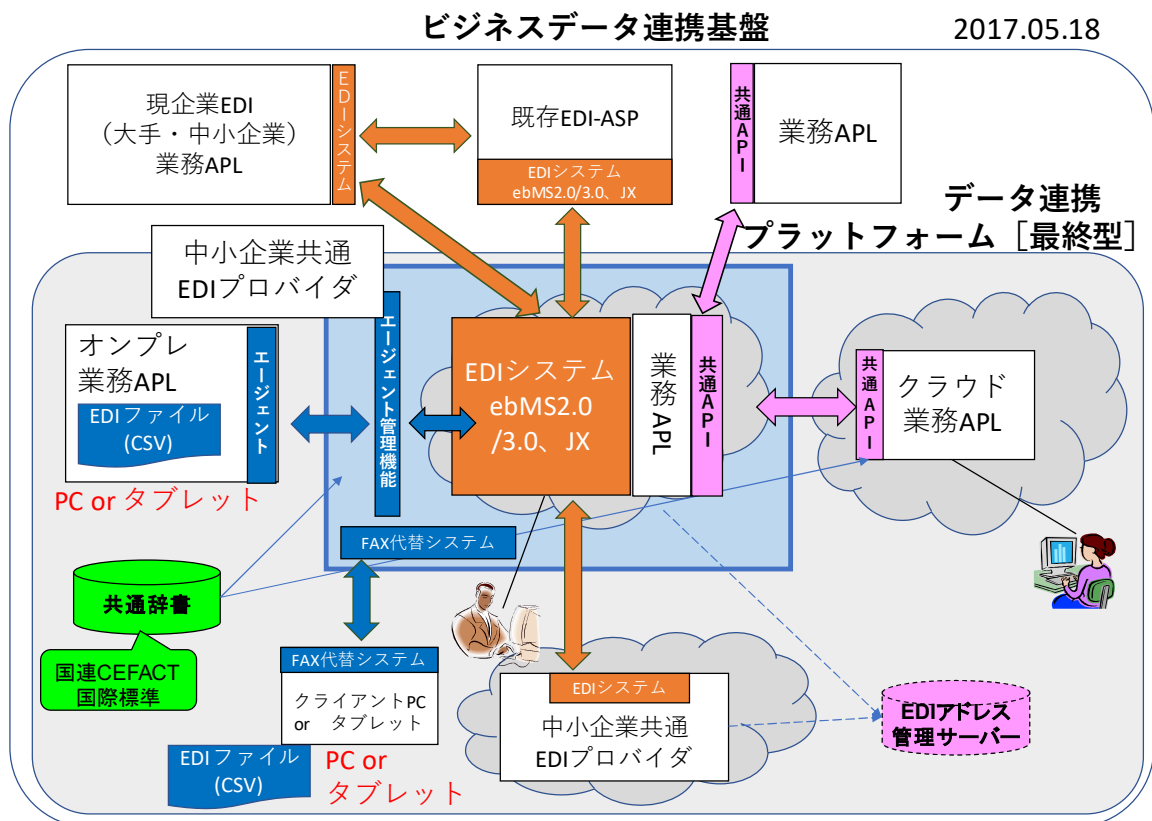


図2 ビジネスデータ連携基盤とデータ連携プラットフォーム [最終形] 関係

「実証プロジェクトのサポート」は、実証プロジェクト採択事業の EDI を、中小企業はもとより中大手企業が実施している EDI へ融合できるよう仕様や環境を整備する。

「現 EDI との融合・普及展開」は、データ連携プラットフォームの機能群と実現方法、運用モデルを検討する。

機能を実現する方法として、パッケージ利用を中心に行うが、個別開発を否定するものではない。運用には、企業の個別導入とサービス利用があるので、環境に応じた運用方法を取りまとめる。詳細は分科会で検討し、「データ連携プラットフォーム実装ガイドライン」として提示する。

### 6. 活動内容

通信規格分科会は、全体を統括する分科会とその下に属する課題分析 WG で構成される。WG で検討した内容について、分科会が承認する。

#### [分科会]

通信規格分科会の活動を決め WG に作業指示を出す。初年度は技術部会で承認を受けた内容で活動を進める。

WG に適宜進捗報告を求め、全体を把握する。WG は、都度分科会に状況を報告し、相互の連携を図る。分科会は合計 4 回程度開催する。

#### [課題分析 WG]

WG は必要に応じてチームを編成し、スムーズな活動を進める。

課題分析 WG は合計 10 回程度開催する。

#### (1) 実証プロジェクトのサポート

- ・全プロジェクトの実証内容の理解
- ・現 EDI との融合・普及展開を見据えたうえで問題がないかを確認
- ・プロジェクト間連携のための方針検討
- ・実証過程におけるサポート
- ・現 EDI との融合に向けた課題検討

#### (2) 現 EDI との融合・普及展開

現行の EDI 技術をベースに「データ連携プラットフォーム」で実現できる融合・普及展開を見極める。連携対象は、企業・プロバイダ・業界など。

##### ① 現 EDI の課題調査

- ・現 EDI が中小企業に広まらない原因を調査
- ・現 EDI の方式で人手やコストが過大な箇所がどこであるかを調査

##### ② FAX 代替機能の研究

- ・受注側、発注側双方における FAX の問題点を調査
- ・今後 EDI が FAX 置き換わるにはどのような方法があるかを調査
- ・もっとも効率が良いと思われる方法を標準化し、データ連携プラットフォームに組み込む。

##### ③ データ連携プラットフォームの仕様検討

- ・「データ連携プラットフォーム」の機能および仕様の検討
  - ⇒ 個別開発、クラウドアプリベンダー、パッケージベンダーの組み込みの可否検討も含む
- ・現 EDI との融合・普及展開の方法について具体策を検討
- ・「中小企業共通 EDI 実装ガイドライン」をベースに「データ連携プラットフォーム実装ガ

イドライン」を策定

- ・関連業界との連携方法について検討

## 7. 成果物

- (1) 実証プロジェクトの現 EDI との融合に向けた課題と今後
- (2) 現 EDI の課題についての調査研究
- (3) データ連携プラットフォーム実装ガイドライン

## 8. スケジュール

### [1] 2017 年度

詳細は、分科会メンバーにて検討し、技術部会・実証プロジェクト部会の承認を受ける。

- (1) 実証プロジェクト推進のためのサポート
- (2) 既存 EDI との融合と普及・展開
  - ① 現 EDI の課題調査
  - ② FAX 代替機能の研究
  - ③ データ連携プラットフォームの仕様検討



図3 スケジュール

## 資料 4

### [2] 2018 年度以降

引き継ぐことが可能な組織ができたなら、以下の検討を続ける

- ・調査研究結果をもとに実証検証を実施
- ・他業界との連携で必要となる機能・施策を検討
- ・IoT との連携を考えたときの機能・施策（既存 EDI との融合面で）を検討
- ・継続的普及のために必要な機能・施策を検討

以上